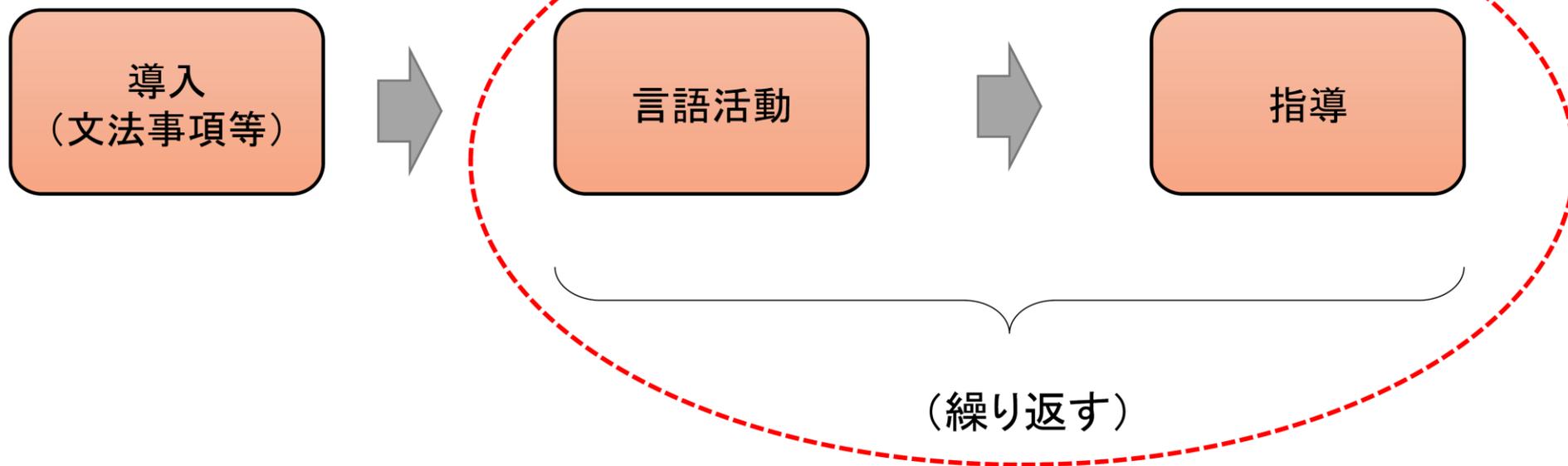


## Ⅱ 授業改善の視点①言語活動の充実

・なお、このような導入をしたからといって、当該言語材料が定着し活用できるようになるわけではない。当該単元に限らず、それ以降の単元においても、繰り返し想起・活用して言語活動に取り組むことを通じて定着が図られる。つまり、ここの過程が重要。

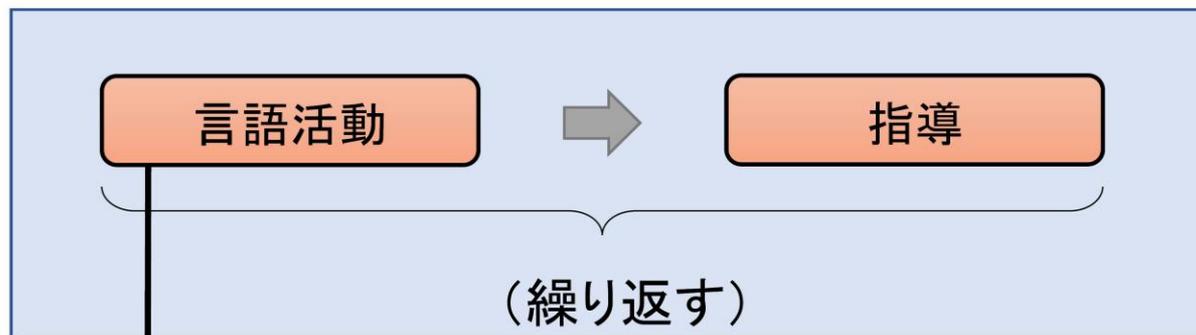


# 「言語活動を通して」指導する

「（内容）」が先。「（英語）」は後。

（伝え合う内容）があってこそその英語の授業

## Ⅱ 授業改善の視点①言語活動の充実



活動前に言語材料を全て示さないため、本言語活動においては、例えば  
以下のような発話になる場合がある。

(例) 第1学年 6月 「好きな動物」についての対話

S1: What animal do you like?

S2: I like Penguin.

S1: Why?

S2: Because ... **small foot トコトコ cute.**

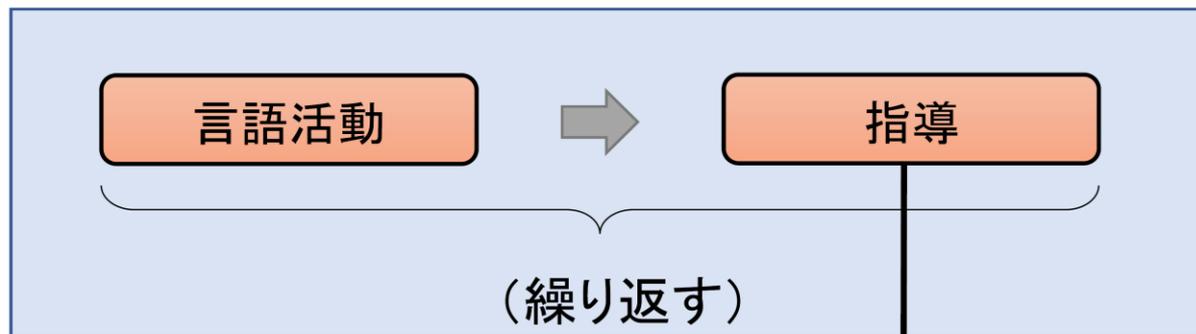
S1: あー、I see.

S1: 生徒1  
S2: 生徒2

S2さんは、小さな足でトコトコと歩くペンギンがかわいいと思っており、そのことを伝えたい

生徒同士(日本人同士)なので通じているが、英文としては、コミュニケーションに支障をきたす(と思われる)誤りがある。というより、そもそも文になっていない。

## Ⅱ 授業改善の視点①言語活動の充実



全体指導の場面で、教師が何人かを指名して対話。まずはS2さんと対話。

T : What animal do you like, S2?

S2: I like Penguin.

T : Oh, you like Penguins. Why do you like Penguins?

S2: Because small foot トコトコ cute.

Ss: あー、分かる、分かる！

T : **That's cute! I think so, too!** How about you, S3?

S3: (略)

T : 教師  
Ss: 学級全体

教師は、S2さんの伝えたいこと(内容)を尊重した応答をしている。S2さんの表現しようとする意欲も高い。他の生徒(Ss)から「あー、分かる、分かる！」の声が上がるなど、学級に培われている受容的な風土も感じられる。しかし…！

## Ⅱ 授業改善の視点①言語活動の充実

T : What animal do you like, S2?  
S2: I like Penguin.  
T : Oh, you like Penguins. Why do you like Penguins?  
S2: Because small foot トコトコ cute.  
Ss: あー、分かる、分かる！  
T : That's cute! I think so, too! How about S3?  
S3: ... (省略)

正確さを求めすぎないようにすることは指導上非常に大切。しかし、「求めすぎない」と「求めない」とは違う。この状態での放置(許容)は、将来的にこの生徒のためになるとは思えない。

「内容を重視し、言語活動を通して指導する授業」においては、言語活動の後に行う指導が肝。この指導が不十分になると、いわゆる「活動あって学びなし」の授業になってしまう。

上の例ならば、リキャストはぜひしたい。加えて、時には次のような指導を、コミュニケーションを継続しながら行うことも考えられる。

## II 授業改善の視点①言語活動の充実

T : What animal do you like, S2?

S2: I like Penguin.

T : Oh, you like Penguin. Why?

S2: Because ... small foot トコトコ cute.

Ss: あー、分かる！

T : Yes! That's so cute!

foot を leg に修正

S2, "Penguin, small foot, well... legs, トコトコ, cute" in English?

S2: えっと...

T : Penguins (2本の指で歩く動作をして) ...?

Ss: Walk!

T : Yes! Penguins walk ...?

S2: Penguin walk foot, あ、le... ?

Penguin を Penguins に修正。しかし、発話は無理強いしない。

T : Legs. Penguins walk legs?

S2: Yes, yes, Penguin walk legs!

T : う〜ん、Dogs walk with four legs, You walk with two legs, Penguins walk with...?

S2: Two legs! あ、Two small legs!

T : Good! WITH small legs. Penguins walk with small legs. It's (手でハートの形を示して)

S2: Cute!

随所で、認め言葉がけ

T : Yes! 文でいえるかな? Penguins ...?

S2: Penguin walk ... small ... with small legs... It's cute!

T : GREAT!! Everyone, do you think penguins are cute?

例(実際の授業をもとに作成)

言いたいことを英語で表現させることに挑戦させる最初の働きかけ。この一言から指導を開始。

ジェスチャーは、既習表現を引き出すための指導方法のひとつ。

他の例を示すことも、引き出すための指導方法のひとつ。

「正確さ」の指導後は、すぐに「内容」に意識を戻す。<sup>6</sup>

## Ⅱ 授業改善の視点①言語活動の充実

このような指導(所要時間約3分)はあくまでも一例。指導の仕方はさまざま。何を指導するかも一様ではない。また、インプットとアウトプットの量を増やし続けることで「正確さ」が伴ってくるという考え方も大切。したがって、1年間の見通しの中で、今はあえて誤りをそのままにしておくこともあり得る。

いずれの場合であっても肝心なことは、言語活動の後の指導を意図的に行うこと。「意図的」とは、何を指導するか、どのように指導するか、いつ(どの程度の頻度で)指導するかについて、教師が自分の考えをもっているということ。換言すれば、「活動あって学びなし」にはしないようにするということ。

## Ⅱ 授業改善の視点①言語活動の充実

意図的な指導をするためには、指導観と指導力が必要。特に指導観は非常に重要。「教えてないのに活動に取り組ませるなんて無理。」「スピーチ原稿を添削するのは教師の役目。」と信じる指導観は、本資料で扱っているような指導方法をブロックしてしまいかねない。

英語を教えるプロである中学校教員には、指導観と指導力をぜひ身に付けてほしい。このことにより、小学校での学びを高める中学校の役割を果たすことにもなる。

## 平成31年度全国学力・学習状況調査中学校英語の概要

「聞くこと」、「読むこと」、「書くこと」、「話すこと」の4技能を問う問題を出題。記述式を一定割合含み、「話すこと」を問う問題は口述式。生徒質問紙調査、学校質問紙調査も併せて実施予定。

10 初めて日本を訪れる外国人観光客向けに、パンフレットを作るようになりました。あなたは、A Gift from Japan! (日本らしいお土産) の記事を担当します。そこで、あなたがすすめたいものを1つ決めて、理由とともに30語以上の英語で記事を書きなさい。

※ 短縮形 (I'm や don't など) は1語と数え、符号 ( , や ? ) は語数に含めません。

(例) No. \_\_\_\_\_ I'm \_\_\_\_\_ not. \_\_\_\_\_ 【3語】

※ 下の枠は、下書きに使っても構いません。解答は必ず解答用紙に書きなさい。

### A Gift from Japan!

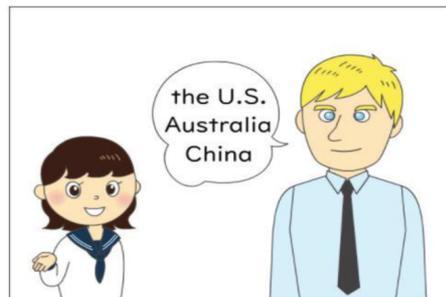


Blank writing area for the student's response.

※ここには、あなたが選んだお土産の写真が入ります。



大問2 あなたは、ナオミと、イギリスから来たリチャード先生の3人で話をしています。まず、ナオミとリチャード先生が、2人で話している場面から始まります。その後、あなたが尋ねられたら、2人のやり取りの内容を踏まえて、英語で応じてください。解答時間は20秒です。それでは、始めます。



R: I want to visit three countries: the U.S., Australia, and China.

N: Why do you want to go to the U.S.?

R: Because I want to see a baseball game there. I'm interested in baseball.

N: I see.

R: And I want to go to Australia again.

N: When did you go?

R: Two years ago. It was a lot of fun.

N: Oh, I want to visit Australia.

R: Great!

(2人が画面の先の生徒の方を見る)

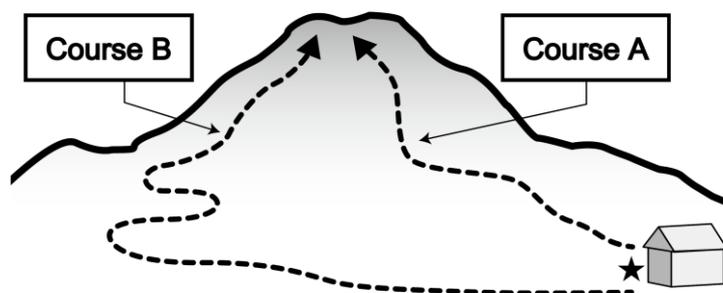
N: Well, do you have any other questions for him?

# Ⅲ 授業改善の視点②全国学力・学習状況調査問題の活用

平成30年度中学校英語予備調査問題から

## 3 (放送問題)

カナダでホームステイ中のあなたは、友達と山登りをすることになりました。これから、山登りに詳しい人が、次の図を見せながら、あなたに事前のアドバイスをしてくれます。その人が一番伝えたいことはどのようなことですか。最も適切なものを、下の1から4までのの中から1つ選びなさい。



- 1 Course B takes more time.
- 2 Course A is too difficult.
- 3 The weather on the mountain changes quickly.
- 4 You have to start before 8:00.

## スクリプト

You are going to take Course A and start climbing at ten o'clock tomorrow, right? But you have to take Course B and start earlier. Course B takes more time, but it is easier than Course A. Course A is too difficult for junior high school students. The weather on the mountain changes quickly. I'm afraid it'll be rainy tomorrow afternoon. So you need to start before eight. Starting at ten is too late. That's my advice.

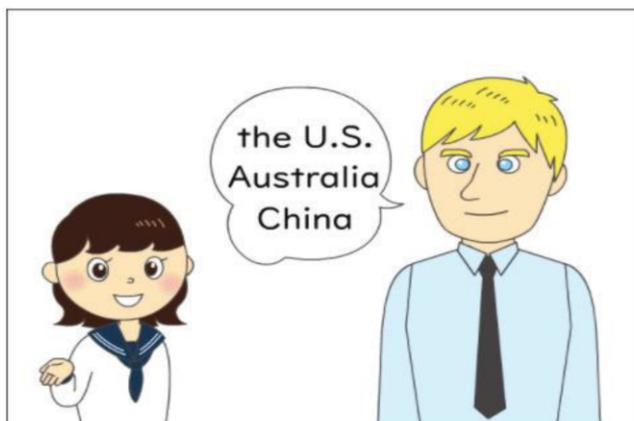
## 「聞くこと」

【出題の趣旨】まとまりのある英語を聞いて、話の概要を理解することができる

# Ⅲ 授業改善の視点②全国学力・学習状況調査問題の活用

平成30年度中学校英語予備調査問題から

大問2 あなたは、ナオミと、イギリスから来たりチャード先生の3人で話をしています。まず、ナオミとリチャード先生が、2人で話している場面から始まります。その後、あなたが尋ねられたら、2人のやり取りの内容を踏まえて、英語で応じてください。解答時間は20秒です。それでは、始めます。



R: I want to visit three countries: the U.S.,  
Australia, and China.

N: Why do you want to go to the U.S.?

R: Because I want to see a baseball game there.  
I'm interested in baseball.

N: I see.

R: And I want to go to Australia again.

N: When did you go?

R: Two years ago. It was a lot of fun.

N: Oh, I want to visit Australia.

R: Great!

(2人が画面の先の生徒の方を見る)

N: Well, do you have any other questions for him?

## 「話すこと」

【出題の趣旨】 聞いて把握したやり取りの内容について、  
問答することができる

## 移行期間中に必要な対応

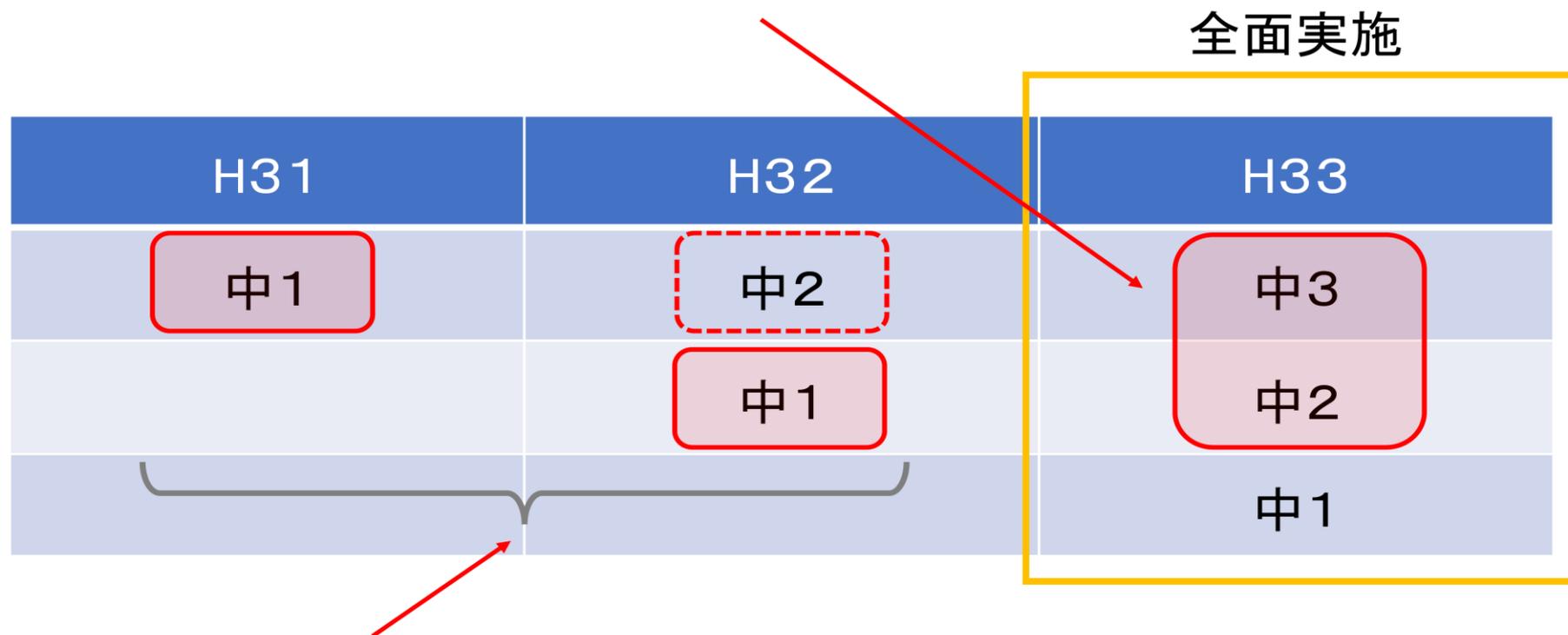
1. 増加する語彙  
追加された文、文構造、文法事項

2. 小学校との接続

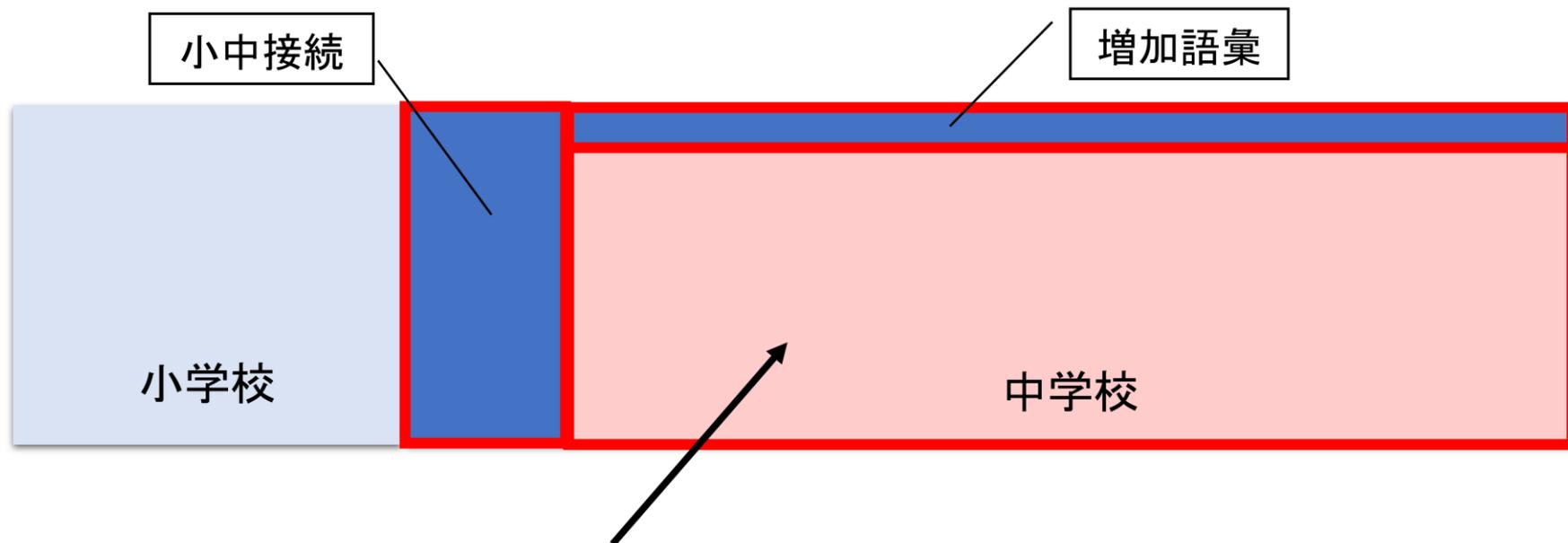
# IV 移行期間の対応

中学校外国語科の移行期間における指導資料の開発に関する検討委員会

全面実施年度の学習に円滑に取り組むことができるよう、  
移行期間中に対応が必要な生徒



この期間の学習に資する、1、2年生用の資料を作成する。



## 中学校外国語科(英語)授業全般の改善方途

- ・対話的な言語活動を重視
- ・interaction豊富な授業(授業は英語で)
- ・言語材料の繰り返しの使用
- ・小学校の学習内容を想起・活用
- ・言語活動を通して指導(「活動→指導」の過程)
- ・LS→RW

## 学習評価について指摘されている課題

- 学期末や学年末などの事後での評価に終始してしまうことが多く、評価の結果が児童生徒の具体的な学習改善につながっていない。
- 現行の「関心・意欲・態度」の観点について、挙手の回数や毎時間ノートを取っているかなど、性格や行動面の傾向が一時的に表出された場面を捉える評価であるような誤解が払拭し切れていない。
- 教師によって評価の方針が異なり、学習改善につなげにくい。
- 教師が評価のための「記録」に労力を割かれて、指導に注力できない。
- 相当な労力をかけて記述した指導要録が、次学年や次学校段階において十分に活用されていない。

## 改善の方向性

- ① 児童生徒の学習改善につながるものにしていく。
- ② 教師の指導改善につながるものにしていく。
- ③ これまで慣行として行われてきたことでも、必要性・妥当性が認められないものは大胆に見直していく。

# 外国語教育の抜本的強化のイメージ

CEFR

**B2**

(英検準1級等)

**B1**

(英検2級等)

**A2**

(英検準2級等)

**A1**

(英検3級等)

## 現状

- ・学年が上がるにつれて意欲に課題
- ・学校種間の接続が不十分

改善・充実

高校卒業レベル  
現: 3,000語程度  
新: 4,000  
~ 5,000語程度

高等学校で  
現: 1,800語程度  
新: 1,800  
~ 2,500語程度

中学校で  
現: 1,200語程度  
新: 1,600  
~ 1,800語程度

小学校で  
新: 600  
~ 700語程度

高等学校

英検準2級程度以上の生徒  
39.3%(目標50%)

- ・学習意欲、発信力に課題
- ・言語活動が十分でない

中学校

年間140単位時間  
(週4コマ程度)

英検3級程度以上の生徒  
40.7%(目標50%)

- ・学習意欲、積極性の向上
- ・言語活動が十分でない

小学校

年間35単位時間  
(週1コマ程度)

活動型

- ・読み書きに対する意欲
- ・音声から文字への接続に課題がある

高等学校

中学校

小学校

## 新たな外国語教育

「何が出来るようになるか」という観点から、国際基準(CEFR※)を参考に、**小・中・高等学校を通じた5つの領域(「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「やり取り・発表」「書くこと」)別の目標を設定**

- ・**5領域を総合的に扱う科目群**として「英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ・Ⅲ」を、**発信力を高める科目群**として「論理・表現Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」を設定
- ・授業は外国語で行うことを基本(前回改訂より)

年間140単位時間(週4コマ程度)

- ・互いの考えや気持ちなどを外国語で伝え合う**対話的な活動を重視**
- ・具体的な課題を設定するなどして、学習した語彙、表現などを**実際に活用する言語活動を充実**
- ・**授業は外国語**で行うことを基本

**5・6年(教科型)** 年間70単位時間(週2コマ程度)

- ・段階的に「読むこと」「書くこと」を加える
- ・指導の系統性を確保 (15分程度の短時間学習の活用等を含めた弾力的な時間割編成も可能)

**3・4年(活動型)** 年間35単位時間(週1コマ程度)

- ・「聞くこと」「話すこと(やり取り・発表)」を中心
- ・外国語に慣れ親しませ、学習への動機付けを高める

【2020年度~】  
大学入試改革



※「聞くこと」「読むこと」「書くこと」「話すこと」に関する調査を実施

※CEFR: 欧州評議会(Council of Europe)が示す、外国語の学習や教授等のためのヨーロッパ共通参照枠を言う。英検との対照は日本英語検定協会が公表するデータによる。

# 外国語教育における新学習指導要領の円滑な実施に向けた移行措置

## 【小学校】

### ◆小学校移行期間(平成30・31年度)中の5・6年生

- ・新たに年間15単位時間を加え、50単位時間を確保し、**外国語活動**の内容に加えて、**外国語科**の内容を扱う。外国語科の内容については、**中学校との接続**の観点から**最低限必要な内容と、それを活用して行う言語活動**を中心に扱う。
- ・教材は、Hi, firriends!(**現行学習指導要領に対応した5・6年生外国語活動用教材**)や、現在文部科学省が開発している**新学習指導要領に対応した教材**から、必要な内容を配布する。

### ◆小学校移行期間(平成30・31年度)中の3・4年生

- ・新たに年間15単位時間を確保し、**外国語活動**を実施する。**高学年との接続**の観点から**最低限必要な内容と、それを活用して行う言語活動**を中心に扱う。
- ・教材は、現在文部科学省が開発している**新学習指導要領に対応した教材**から、必要な内容を配布する。

## 【中学校】

### ◆中学校移行期間(平成30～32年度)のうち、平成31・32年度の1・2年生

- ・授業**時数は追加せず**、**小・高等学校との接続**の観点から、知識・技能について**新たに追加した内容と、それを活用して行う言語活動**を計画的に指導する。

	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	34年度
					小学校全面実施	
					中学校全面実施	
		※平成29年度中に必要な教材を配布	※平成30年度中に必要な教材を配布		※年次進行で実施	高等学校
平成17年度生まれ～	小6(35)	中1	中2	中3	高1	高2
平成18年度生まれ～	小5(35)	小6(+15 → 50)	中1	中2	中3	高1
平成19年度生まれ～	小4	小5(+15 → 50)	小6(+15 → 50)	中1	中2	中3
平成20年度生まれ～	小3	小4(+15)	小5(+15 → 50)	小6(70)	中1	中2
平成21年度生まれ～	小2	小3(+15)	小4(+15)	小5(70)	小6(70)	中1
平成22年度生まれ～	小1	小2	小3(+15)	小4(35)	小5(70)	小6(70)
平成23年度生まれ～	年長	小1	小2	小3(35)	小4(35)	小5(70)

... 外国語活動移行措置
 ... 外国語科移行措置
 ... 中学校移行措置

※中学校の時数は現行と同様、年間140単位時間程度。  
 ※生まれ年度はイメージとして示している。